

☆ まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

182号

2016年8月10日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

○ 図書館問題

地域センターでの説明

中央図書館の移転問題で、7月30日、地域センターでの説明会が行われました。今回は意見交換会と言っています。地元住民はまだ納得していないとのことですが、区の方では既に決定として話を進めている様子。次回はどこにどのように建てるのか、具体案が出るそうです。地元の思いを強引に押し切るのであれば、最大限、地元の意向を取り入れた計画にすべきです。

一方、常盤台公園の跡地利用については、先月行った視聴覚室での車座での話し合い（その時は話し合いには発展せず思い思いの意見を述べたに過ぎない）を継続して開催することを申し入れています。バザーの時に顔を合わせた人たちも、図書館を小規模でも残したいと言っていました。

○ 新航空ルート問題

— 板橋区上空を1時間44便も —

私たち常盤台住民にとってはまさに寝耳に水の新航空ルートですが、大田区や品川区の人は、かなり前から運動を展開していたのです。

彼らと国交省との話し合いが7月20日（水）午後衆議院会館であり、国交省から2人の若者が出席、20人ほどの住民や区会議員と質疑応答が交わされました。資料不足など積み残し多数で次回に持ち越されました。

今回は8月9日、参議院会館で行われました。この間に「羽鳥慎一モーニングショー」「噂の東京マガジン」などで取り上げられたこともあり、各区の議員の参加が増えています。国交省の説明材料はかなり恣意的楽観的で信じられず、特に下記の誤報問題では、まったく市民の疑問に答えられていませんでした。

私たちは今岐路に立っています。経済的利益を取るか、安全と環境を取るか、なのです。

○ とんでもない誤報

— 国交省の悪知恵か? —

七月末、突然新聞各紙に驚くべき記事が載りました。

たとえば東京新聞（七月二十九日）には「羽田新ルート 自治体が了承」という見出し。三面には『自治体了承「寝耳に水」住民ら周知不足に不信』とありました。

誰もが東京都二三区長全員が了承した、と受け取ってしまいます。金曜日に出されたニュースは月曜日まで確認が取れません。月曜に板橋区都市整備部に電話を入れるとこれは誤報だとのこと。板橋区長は了承していません。品川や大田など他の区でも同じです。

国交省の説明では、これは「第四回首都圏空港機能強化の具体化に向けた協議会」と称するもので、特別区長会の会長である西川太郎荒川区長が了承したというもの。この会自体に決定権があるのか、荒川区長は他の区長の意見を求めたか、などの基本的疑問には明確に答えられず、かといって誤報とも認めず、会場からは驚きと怒りの声が上がりました。なしくずしに既成事実化しようとした国交省の魂胆が見えたような気がします。

板橋区民は四月末決定の新ルートのことを六月の説明会で初めて知ったのですが、その三日間の説明会に来たのはたった一五九人、周知徹底もされていません。板橋区長も区議会議員も、住民の安全と環境悪化をまさか容認したりしないでしょうね。

署名運動

別紙でお願いすることになりましたが、常盤台の真上を通る航空新ルートの見直しを求める署名運動をいたします。どうぞよろしくご協力ください。

平和公園のカルガモ

毎年ヒナが動きまわって可愛い光景を作り出している平和公園の池ですが、今年は七月になってやっとヒナが見られるようになりました。が、たったの二羽です。カラスや野良猫に襲われたりしたのでしよう。去年までとは違って、去年この池を巣立った若鴨なのでしようか、常時十羽以上泳ぎ回っているようです。

バザーの報告

七月十日(日)常盤台小学校正門前のK家のガレージをお借りして、選挙時に行う恒例のバザーが無事終わりました。終了後売れたりしたものが、まだ詳細が出ていませんが、八万円程度になったと思います。ご協力有難うございました。紙代・印刷代などの活動費に当てることができます。「公園の花づくりの会」手づくりの無農薬・無添加のマーメイドも順調に売れ、バザー後も毎月お買い上げくださるリピーターもいるほどです。堀江菜穂子さんの詩集「さくららのこえ」は、一般の人には初耳なのか、手に取る人は少なかったのですが、知人にあげたいと二〇冊買われた人がいました。老後の余裕があればこいう使い方も良いと思いました。

大丈夫なの？オリンピック騒ぎ(1)

リオのオリンピック・パラリンピックが始まり、猛暑の中、日本選手の活躍を応援しながら見ている人は多いと思います。しかし、スポーツ関係者や報道陣が盛り上がりれば盛り上がるほど、だんだん冷めていく部分があるのは何故でしょうか？

お祭り騒ぎが大好きな国民、何かと一体感を持ちたがる日本人ですが、どこかしらけているのは少数ではありません。なにしろ候補地の中で東京が一番国民の支持率が低かったのですから。いろいろな問題が底に溜まっています。都心を低空で飛ばすという航空ルートの提案なども底から浮上してきたひとつです。頑張っているアスリートたちも、過度に税金を使ったり、国民の安全を犠牲にしては気持ちよく競技できるはずがありません。改めて幾つかの問題を取り上げてみます。

* 金銭問題

最近のIOCの委員長をはじめ委員会メンバーに起きた賄賂疑惑は、オリンピックという行事が、今や単なるスポーツの祭典ではなく巨大なビジネス化していることから、限りなく金銭面での不信感を持たせる原因となっています。

国内でも同様で、東京招致の裏側でも、何億という金を使ったらしいという疑惑は、まだ解明されていません。

小池都知事の視察、随行五人で一千万円は普通の庶民の感覚ではまだ無駄遣いです。飛行機代や宿泊費の内訳も公開してほしいと思います。(次号に続く)

常盤台公園のはなづくり

今年は梅雨が長引いたので、花壇の水やりが苦労していない時がありました。が、酷暑の中の水やりは今から思いやられます。

Tさんの意見では、水やりは朝やってはダメで、夕方十分に日が落ちて温度が下がってからでないといけないのだそうです。なぜなら朝やると水滴が葉の上に残り、昼の太陽の光がレンズのような役をして植物を痛めるのだそうです。なるほど！です。

図書館前の花壇も、植えたばかりはきれいでしたが、ニチニチソウが元気がありません。恵みの雨も大降りだと、土の跳ね返りが葉裏に付いて、呼吸の妨げになったり、土中の細菌が入ったりして、花苗全体がしおれてしまうことがよくあります。ニチニチソウはそういう被害を受けがちですが、角の花壇では活き活きしています。なぜか理由はわかりません。また、大きい木の下は草が生えなくなります。枝から落ちる雨が花やつぼみを打つので、草花にとっては打撃なのです。

特に公園に多いケヤキは細かい根が地表近くに生えて、他の植物を排除してしまふようです。しかし、外国の公園などでは、樹木の根元まで青々とした芝生になっっているの、これは芝が違うのか、日本の気候がそうさせないのか不思議に思います。